

「イスカリオテのユダ」

ヨハネ13:18～30 p212

イスカリオテのユダは、イエス・キリストを裏切り、金で売った人物として悪名高い。なぜ、イスカリオテのユダはイエス・キリストを裏切ったのだろうか。なぜ、心の中に悪魔が入るのを許してしまったのだろうか。

彼は当時のユダヤ人と同様、キリストは政治的にユダヤの国を救う王であると思い、ユダは主イエスこそ、そのキリスト、ローマからの解放者であると期待していたようである。主の弟子たちもそう思っていたが、その弟子たちの中で、イスカリオテのユダは自分だけは特別だと思っていた節がある。彼は生粋のユダヤ人で教養があり、お金の扱いや経営の才覚もある。主イエスが王となるなら、権力の次の座は自分であるという野心を強く持っていたのではないだろうか。しかしそのユダに、隠れた暗闇があった。預かったお金を着服していたのである。初めは小銭でも、回数を重ねると高額になる。隠しおおしたい。それが明るみになるぐらいなら、死んだ方がましと考えるほどのプライドの高さ。その闇に悪魔が入り込むのは簡単である。彼は巧妙な悪魔に誘導され、用いられ、ついに、主イエスを裏切ってしまったのである。

しかしたとえ主を裏切るユダであっても、もしここで彼が悔い改めていたら、十字架による赦し、贖いの回復の道は残されていたのである。しかし、悪魔に目を覆われていたユダには、主イエスの本当の愛と赦しが分からなかったのである。

[聖書の学び]

I イスカリオテのユダを選ばれた主イエス

1、ユダの名前から、彼の出生地が分かります。

人 南部ユダヤの村(ヨシヤ15:25=ケリヨテ)

↑

イス + カリオテのユダ = ユダヤのカリオテの人であるユダ の意味

弟子12人中、11人は異邦人の混在するガリラヤ出身。
イスカリオテのユダだけが、純粋な南ユダヤ出身である。

2、主イエスは十二使徒を選ぶとき、どのように選ばれたのでしょうか。(ルカ6:12 p120)

3、ベタニヤのマリアが主の足元にナルドの香油を注いだとき、ユダは何と言いましたか。
(ヨハネ12:5 p208)

4、イスカリオテのユダは何を隠していたのでしょうか。(ヨハネ12:6)

5、この後すぐ、イスカリオテのユダは何をしたのでしょうか。(マタイ26:14～16 p56)

II、イスカリオテのユダに対する主イエスの愛

1、最後の晩餐において、悪魔はイスカリオテのユダの心は何を入れて来たのでしょうか。
(ヨハネ13:2 p211)

2、主イエスは言葉の端々^{はしばし}にユダに警告を発しておられます。そのみことばを見ましょう。

①洗足の場において（ヨハネ13:10,11）

②食事の最中に（ヨハネ13:18、21）

③あからさまにパンを与えながら（ヨハネ13:26）

3、ハッキリ指摘されても止めようとしないユダに、主イエスはどのように言われましたか。
(ヨハネ13:27)

人の心の内を知られる主イエスの心の痛みはどれ程だろうか。最後の晚餐でのユダとの別れ。弟子たちとは一度は別れるが、必ず復活の望みがある。しかし、永遠の滅びの地獄に向かってしまったユダに、主イエスは未来永劫、決して会うことはない。

Ⅲ、破滅に向かうイスカリオテのユダ

1、ゲッセマネに行かれた主イエスの所に来たユダは何をしたのでしょうか。
(マタイ26:47～50 p58)

2、主イエスの死刑が確定したとき、ユダはどうしましたか。（マタイ27:3～8）

3、イスカリオテのユダは悲惨な最期を遂げることになってしまったのです。（使徒1:18 p233）

十字架刑が決定したとき、悪魔の目的は達成した。用済みのユダの覆われた目隠しは取り除かれ、目が醒めたとき、犯してしまった罪の大きさに耐えられず、彼は死に逃げ場を求めたのである。しかし、死は逃げ場ではない。神を裏切った彼の死は永遠の滅び、永遠の苦しみである。

* ディスカッション （心を開いて話し合ってみましょう）

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。